

JA マキノ町の加工用タマネギの収量向上支援

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

JA マキノ町では平成 28 年から水田を活用した加工用タマネギの栽培に取り組んでいます。しかし、排水不良や病害の発生、雑草の繁茂により収量を確保できない状況でした。そこで、平成 30 年から目標収量 4.0t/10a を目指して技術支援を行いました。

【普及活動の内容】

JA と連携し、生産者に対して、栽培研修会や現地巡回を通して以下の収量向上対策の実践を啓発してきました。

- ・年内の生育量を確保するために定植時期を早める。
- ・気象条件の良い時期に定植作業ができるよう播種時期を早める。
- ・ほ場の排水条件を改善するために額縁明渠の施工を徹底する。
- ・ほ場の排水性を上げるために水田に戻さずに連作をする。
- ・機械による収穫作業の妨げにならないよう抑草するために、薬剤選択と散布時期の判断力を高める。
- ・べと病が発生しないよう薬剤ローテーションの予防防除を徹底する。

【普及活動の成果】

排水対策の実演会や栽培研修会での排水対策の啓発により、すべての水田で額縁明渠による排水対策が実践されました。また、生産者とともにタマネギの生育状況や雑草の発生状況を確認し、薬剤散布の判断について支援した結果、べと病による大きな被害は見られませんでした。その結果、令和元年産では収量 4.1t/10a を確保することができました。しかし、令和 2 年産では、連作による乾腐病の発生や収穫時期の長雨の影響による収穫遅れで、腐敗球が発生し、収量が 2.6t/10a になりました。今後は、連作障害や天候不順に負けない防除・除草体系の確立により、収量の安定を目指して支援します。



写真 1 生産者と JA との現地巡回



写真 2 収穫作業の様子

◎対象者の意見

排水対策の重要性や雑草の抑草技術がわかってきた。今後は連作による病害対策技術の支援を期待している（生産者）。